

平成24年度第3回地域貢献推進委員会議事要旨

○日時：平成25年3月29日（金） 10:30～11:15

○場所：大学本部棟2階 第二会議室

○議題：【審議事項】

1. 平成24年度年度計画の推進について（資料1）
 - （1）研究者データベースにおける社会活動掲載項目について
 - （2）地域貢献推進委員会ホームページ（案）について
 - （3）第2期中期目標・中期計画達成のためのプロジェクトシート
2. 平成24年度地域貢献推進委員会報告書
－智の地域拠点形成に関する課題と提言－（案）について（資料2）
3. その他

【報告事項】

1. 各部局等における各種コーディネーターについて（資料3）
2. その他

○出席者（15名）：山崎秀雄（社会連携担当副学長、委員長）、堤純一郎（産学官連携推進機構副機構長）、真栄城勉（生涯学習教育研究センター長）、狩俣繁久（法文学部教授）、飯島祥二（観光産業科学部教授）、望月道浩（教育学部准教授）、新城竜一（理学部教授【代理出席】）、古川俊雄（工学部教授）、平山琢二（農学部助教【代理出席】）、新里尚也（熱帯生物圏研究センター助教）、舟木慶一（総合情報処理センター講師）、喜納育江（国際沖縄研究所教授）、大城清隆（附属図書館事務部長）、門脇英雄（学術国際部長）、我那覇生治（学術国際部地域連携推進課長）

○陪席者：玉城優里（地域連携推進係員）

まず始めに、前回の委員会の議事内容の確認があり、意見・訂正等があれば、後ほど地域連携推進課へ連絡するよう発言があった。

◆報告事項1 各部局等における各種コーディネーターについて、資料3に基づき、我那覇委員より以下のとおり報告があり、了承された。

前回の会議において、コーディネーターについてのアンケートを実施し、各部局より意見を伺うこととなった。各部局からの回答を受けて集計を行った結果、学内の7割以上の部局において、コーディネーターの必要性を感じているという結果となった。

◆審議事項1 平成24年度年度計画の推進について

①研究者データベースにおける社会活動掲載項目について、資料1-1に基づき、山崎委員長より次のとおり説明・提案があり、了承された。

人材データバンクの全学的な運用を目指す際に、まずは現在運用している研究者データベースの活用で対応するというのが、本委員会の方針である。資料の社会活動掲載項目案は、社会連携の分野ごとに大・中・小のカテゴリで活動の項目を選択できるようにしたものであり、この件に関して

各部局等から意見や要望を伺った。

4月からは、まず案の内容で運用する方向で進めてはどうか。ただし、各部局等からの意見についてもフィードバックする必要があるため、来年度の本委員会で継続審議して頂くこととしたい。

②地域貢献推進委員会ホームページ（案）について、山崎委員長より次のとおり説明があった。

地域貢献関連の予算がないということもあり、今年度は簡単なホームページを作成した。委員の先生方だけに事前に HP アドレスを送付しているので、既にご確認頂いているかと思う。修正点や気づいた点等があれば、ご意見を頂きたい。また、本ホームページを学内外に公開するという事についても了承を頂きたい。

このことについて、以下の意見があった。

- ・直接コメントを記入できるようになっていたことは良いと思う。ホームページに関する意見等も上がってくると思うので、それを受けてさらに改善していければ良いのではないかと。

このことについて、山崎委員長より以下のような提案があり、了承された。

今年度、とりあえず学内外へ見えるような形にしなければならないので、完成版ではないが、まずは公開してみてもどうか。来年度の修正も可能なので、ホームページに関して頂いた意見については来年度の本委員会で継続審議して頂くこととしたい。

③第2期中期目標・中期計画達成のためのプロジェクトシートについて、資料1－3に基づき、山崎委員長より説明があり、了承された。

4月確認分について、今年度の本委員会の活動実績のまとめを記載している。修正等がなければ、本内容を地域貢献推進委員会の報告として提出したい。

◆審議事項2 平成24年度地域貢献推進委員会報告書―智の地域拠点形成に関する課題と提言―（案）について、資料2に基づき、山崎委員長より次のとおり説明があった。

前回の委員会において、4月より執行部も新体制になることから、今年度の委員会の活動のまとめとして、議論した内容や各部局等から回答して頂いた意見・要望等を次年度以降にも生かしていただくという継続性も込め、提言案を提出することとなった。まずは現状でどのような内容を盛り込むかについて委員長私案として報告書を作成した。なお、本報告書は、平成22年度に本委員会にて策定された「琉大ちゅら島プラン」の実行プランとしている。重要なのは提言案だが、学内において全学的な社会貢献の体制・意識がまだ醸成されていない状況であるため、まずは大学の歴史の変遷やランド・グラント・ユニバーシティの理念に触れる必要があると考えており、冒頭に社会的背景と歴史をまとめた。また、学校教育法の改正以後は社会貢献が大学の責務の必須要件となっていることについても周知がないので、このことについても明記した。課題については、これまでの地域貢献推進委員会の議事要旨の中から個人的に抽出した事象であり、主なものとして、全学組織的な地域貢献活動の欠如、地域ニーズ受信の仕組みと体制、学内の連携体制を挙げた。さらに、課題に対する対応案として、まず第一に窓口の設置が必要であること、コーディネーター職員の配置の検討、地域貢献支援システムや組織整備の必要性、大学サテライト設置、社会貢献にかかる予算の確保等を挙げた。

本委員会が出された関連資料や議事要旨等はそのまま報告書として掲載することとしたい。また、前半の部分に関して、本来であれば委員の先生方のご意見を伺うべきだが、年度が終了するため、委員長一任という形で地域貢献推進委員会の報告とさせていただくか、もしくは、あくまで地域貢献推進委員会の委員長の私文として前半部分の編集をお任せいただくか、審議して頂きたい。

このことについて、以下のような意見・提案があった。

・4月以降は委員の交代等もあり、委員の意見を集約して編集を行うというプロセスは難しいため、前半部分については、委員長提言とした方が良いのではないかと。

・委員長提言として提出した場合、どの程度の重みとして受け止められるか。

→どのように受け取るかは、受け取る方の心情による。報告書の内容にある課題・提言は、すべてこれまでの本委員会での議論の内容をベースとしており、抽出・編集の責任を委員長が担うということと考えて頂きたい。委員会全体の意見という形ではなく、あくまでもこれまでの委員会での議論内容の分析ということになる。

・課題の「3.1 全学組織的な地域貢献活動の欠如」に対応する解決策は「4.3 地域貢献支援システム・組織の設置」になるのか。

→そのように考えている。

・事務組織についてはどこに入るのか。

→「4.3 地域貢献支援システム・組織の設置」の中で言及している。この文面については、まだ関係者との協議を行っておらず、文言の修正等があり得る。

・課題や対応案については、順番を検討した方が良いのではないかと。

・沖縄 21 世紀ビジョンについての記載の中で、「即ち、沖縄の将来ビジョンに本学の果たすべき役割は含まれていない」という記述が気になった。明言するのではなく、どのように関わっていくかについて触れる程度が良いのではないかと。

・本提言は、委員会内部の資料になるのか、それとも外部への公開するのか。情報セキュリティのレベルでいうと、「学内公開」での対応が良いのではないかと。

・学内公開に限定してしまうと、本学が地域貢献に対してどのような方針を持っているかという情報等について学外の方が知り得なくなってしまうので、本委員会の性質上、原則公開とした方が良いのではないかと。

・委員長判断で編集する部分と、次年度に継続審議が必要となる部分があるので、とりあえずは学内公開とし、次年度の途中からでも公開を検討していくという方法もある。また、対応案の「4-1 社会への窓口の設置」と「4-3 地域貢献支援システム・組織の設置」は同じような組織論なので、まとめて記述した方が良いのではないかと。

審議の結果、前半部分の課題・対応案の抽出・編集については委員長責任ということで作成することとなった。また、報告書の取り扱いについては、まずは学内公開とすることとなった。ただし、内容の編集・修正等も含め、公開する場合には次年度の本委員会において、議論をして頂くということで申し送りをする事となった。

最後に、山崎委員長より、提言書には可能な限り委員の意見を反映させる形で編集するので、意見があれば地域連携推進課へ連絡するよう発言があった。

以上